

# 埼玉県退職校長会 会報

題字・石田孝作  
第174号  
令和4年1月

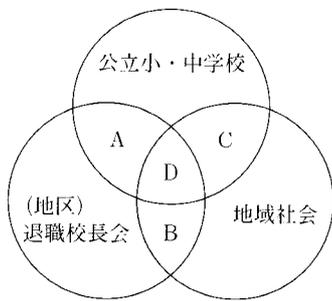
## 地域における退職校長会

埼玉県退職校長会副会長 比留間 英雄



過日、学生時代の友人から退職校長会は何をする会かと問われた。その時は漠然と答えたが、改めて考えてみた。彼に限らず地域の人にも私達の会を理解してもらおうには、わかり易い説明が必要となる。

(仮説) 退職校長会の役割



何故なら私達の会は会員の親睦と福祉に留まらず、地域に貢献できる会になることが

求められるからである。そこで地域における退職校長会の役割は、左上図のように想定できるのではないかと

### Aは学校支援

学校を取り巻く状況は以前にもまして厳しいが、私達が支援する場はあると思う。私は小学校で読み聞かせを

続けているが、学校支援ボランティアには多くの方が参加できるのではないだろうか。ただ、現職校長からの要請

### Bは社会奉仕・社会貢献

が前提になるが。地域への貢献はそこに暮らす一員としての任務でもある。退職後も、私達は地域から

期待される立場にある。ただ、元校長という肩書を脱して地域の一員に徹する必要がある。

社会貢献の姿は様々だが、会としても個人としてもでき

1	2	巻頭言
3	11	支部別教育推進協議会報告
		第1回理事会報告
12	17	一人一言
18		現・退職校長会役員研究協議会報告
19		長寿会員への寿詞贈呈
20		文芸・編集後記

る限り応えるべきものと思う。Cは学社連携事業

学校と地域の連携は不可欠であるが、主として現職校長の任務になるであろう。Dは地域づくり

## 洪澤栄一翁に想う



比企支部長 岡部 巖

どの地域においても地域の活性化や住民の交流が求められているが、私達も積極的に参加すべきではないか。既に保護司・人権擁護委員

・社会教育委員等で活躍されている会員もおられるが、身近な地域にも活躍の場が用意

されているものと思う。この図を示して先の友人や地域の方にも説明したいが、理解されるだろうか。

地域の子どもの達の体験活動支援に携わって10有余年になる。この団体の企画で、今年度は埼玉の偉人洪澤栄一翁に

的を当てた。去る12月8日深谷市の洪澤翁の生家(中家)と洪澤栄一記念館を訪れた。

初冬の静かな日和に恵まれ、10数年前に大里教育事務所勤務した頃一度訪れて以来であった。当時と比べると生家周辺も整備され一段と輝きと重々しさを感じ心が弾んだ。

今ある生家は、翁の妹が昭和20年代に改築し、翁も床の間のある奥座敷で過ごしたという。今回は、その奥座敷に翁の実物大の座像が頭を左右にゆくり振りながら迎えてくれた。たまたま、家に帰ると洪澤翁の番組がテレビ放映されていた。翁の側で過ごした孫娘様(現在99歳)が「祖父は、誰にでも優しい人でした」と思い出を語られている姿を拝見できた。身寄りの無い子どもや老人を介護する「養育院」に関わった経歴と一致することに頷いた。かつて放映された場面では、父の営む藍染めの仕事を手伝うと

きも、藍の葉の買い付けの場面では、葉の出来具合を厳しく指摘し、安く買い占める姿も脳裏に焼き付いている。10代の頃から経営姿勢を持ち供えていたことが解るような気がする。記念館に行くとアメリカ大統領と3回も会っている翁の姿を確認することができた。日本との国際親善のためにアメリカから1万4000体の人形を贈られるという動きには、政府に働きかけ「国際児童親善会」を組織して臨み、それを日本各地の学校に贈り、子ども達へ国際親善気運を盛り上げるなど、翁の教育者たる片鱗を覗き見られる。若くして郷里を離れ15代將軍徳川慶喜名代に随行してヨーロッパに赴き、西欧の社会制度や文化、思想等を我が国に持ち帰り、国の制度企画に当たると共に、日本の銀行制度導入を実現したことにも震撼する。加えて、会社設立500社は偉大である。正に、翁は、「近代日本経済の父」と表される所以である。3年後には、世界中の人々が栄一翁の姿入りで万円札に触れて、翁を身近に感ずる日が来るのも楽しみである。